

事業概要

(自昭和十四年一月
至昭和十四年十二月)

千葉県木更津保健所

国立保健医療科学院蔵



10012102

P-D
昭14
12A

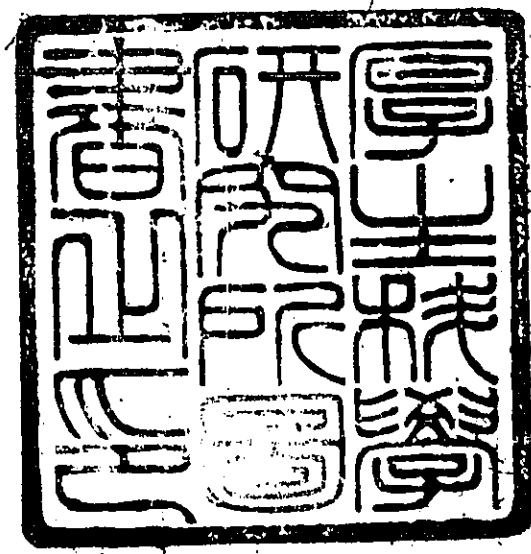
事業概要

自昭和十四年一月
至昭和十四年十二月

千葉縣木更津保健所

昭和16年3月27日
千葉縣木更津保健所
寄贈
厚生科學研究所

P-D
昭14
12A



緒言

當保健所管内ノ地勢ヲ觀ルニ大別シテ海岸部、農村部、山間部ニ分タレ各地域ニ應ジテ疾病、榮養其他一般狀況ガ多少共相違シテ居ル様デアル、從ツテ本年報作製ニ當ツテハ各町村別ニ種々ノ觀察ヲナスハ勿論有意義ナルモ大局的ニ觀察シ又煩雜ヲ避クルニハ海岸、農村、山間部ノ三區域ニ分ツテ最モ有意義ナリト信ズル依ツテ便宜上管下三十七ヶ町村ヲ次ノ如ク三分セリ

山間部—亀山、松丘、三島、秋元、小糸、關豊、環、天神山

農村部—久留里、小櫃、馬來田、富岡、平岡、根形、中郷、中川、清川、鎌足、八重原、貞元、

周南、飯野、中

海岸部—長浦、昭和、金田、巖根、木更津、波岡、周西、青堀、富津、大貫、佐貫、湊、竹岡、

金谷

以上ノ如キ地域別觀察ニテハ多少共各町村ノ特色没却セラル、虞ナシトセズ又統計ノ觀察ニ當リテハ獨自ノ解釋ヲ下セルモノ多キコト、信ズ
偏ニ各位ノ御叱正ヲ乞フ次第デアル。

54

事業概要

- 一、衛生知識ノ普及……………五
- 二、健康相談……………六
- 三、家庭訪問……………一
- 四、栄養ノ指導……………一六
- 五、環境衛生ノ指導……………一七
- 六、學校衛生ノ指導……………二一
- 七、傳染病豫防……………二五
- 八、基礎調査……………二五

事業成績

一、衛生知識ノ普及

イ、集會

ロ、刊行セシ印刷物

二、健康相談

イ、所内健康相談

ロ、巡廻健康相談

ハ、理化學的諸検査

三、家庭訪問

イ、結核患者家庭訪問

ロ、乳幼児家庭訪問

乳幼児栄養方法ト栄養概評

乳幼児年令別發育概評

四、栄養ノ指導

イ、栄養改善指定部落

ロ、講習會

ハ、共同炊事

ニ、間食ノ調査

五、環境衛生ノ指導

イ、健康部落ノ指定

ロ、寄生虫検査

虫卵別地域別成績
學年別地域別成績

六、學校衛生ノ指導

イ、結核豫防

ツベルクリン反應

赤血球沈降速度

有熱狀況

重症兒童

ロ、營養ノ指導

學校給食

臨海學校ノ指導

ハ、寄生虫驅除

ニ、傳染病豫防

七、傳染病豫防

基礎調査

一、人口動態

イ、地域別年令別現住人口

ロ、人口増加率

ハ、出生、死亡、死産、乳兒死亡率

ニ、一般死亡原因

ホ、乳兒死亡原因

二、傳染病

イ、發生狀況

ロ、死亡率

附、疫學的觀察

三、地方病

イ、ワイル氏病

四、學童營養概評

五、學童近視

六、壯丁検査成績

七、町村別職業別世帯數及人口

八、町村別生産高及納稅負擔額

九、町村別地積

一〇、醫師其ノ他ノ分布狀況及町村別衛生費調

一一、學齡不就學兒童首者、啞者、其ノ他調及要救療者、癩、精神病者調

一二、工場、食品市場、屠場、牛乳營業者調

附、保健所後援會ノ事業

事業概要

一、衛生知識ノ普及

パンフレット、ポスターノ配布、新聞記事掲載、講演會、座談會、映画會ノ開催等ニ依リ區域内ニ衛生ノ必要ヲ説キ各町村當局、學校、婦人會、青年團ト連絡協調シテ保健知識ノ向上ニ努ム

二、健康相談

毎週月水金ニ所内健康相談ヲ實施、利用者ハ前年ニ比シ急激ニ増加シツ、アリ。尙年二回ヲ標準トシテ區域内各町村ノ巡廻相談ヲ行フ。

三、家庭訪問

健康相談來訪者ノ内結核患者、乳幼児及ビツベルクリン陽性要養護學童ニ對シテ保健婦其ノ家庭ヲ訪問シ疾病ノ豫防、療養等ニツキ指導看護ヲ行フ。

四、榮養ノ指導

各町村、學校、婦人會ト協力、講習會ヲ開催シテ主婦ノ榮養知識ノ向上ヲ計リ特ニ農繁期ニ於テハ共同炊事ノ獎勵指導ニ努メ一方學校給食ノ必要ヲ力説シコレガ指導ニ應ジツ、アリ。

五、環境衛生ノ指導

一般及指定部落家庭ノ飲料水ヲ檢シテ設備ノ改善ヲ促スト共ニ寄生虫検査ヲ行ヒ便所、糞便貯溜槽ノ改善ヲ獎勵スル外一般家庭衛生ニ就キ指導ス。

六、學校衛生ノ指導

一般家庭ノ衛生ハ先ヅ學童ヨリトノ方針デ區域内全小學校ノツベルクリン陽性要養護兒童ノ療養指導ニ全カヲ盡シ一方虛弱化ノ禍根タル寄生虫驅除ヲ全般的ニ行フト共ニ榮養ノ改善ヲ促シ學校給食ヲ獎勵シツ、アリ。尙ホ傳染病豫防ノ必要ヲ説キチフテリア、チフス等ノ豫防注射ヲ施行セリ。

七、傳染病豫防

傳染病豫防ニ關シテハ未ダ一般ノ認識不充分ニシテ當事者間ニ於テモ積極性少クコレガ對策ニハ多大ノ腐心ヲ要スルモノアルヲ以テチフス、チフテリア豫防注射ノ勵行ヲ促ス一方地方病トシテ相當多キワイル氏病ニ就キテハ特ニ豫防接種ヲ獎勵シツ、アリ。

八、基礎調査

保健衛生ノ對策ニハ先ヅ各地域各般ノ實情ヲ調査シ統計學的ニ各方面ヨリ觀察シテ對策ヲ立案スベキデア

ル。依ツテ此ノ方面ニハ特ニ重點ヲ置キ衛生ニ關係アル事項ニ就キテハ可及的廣範圍ニ資料ヲ蒐集シテ觀察セリ。

事業成績

一、衛生知識ノ普及

イ、集會 各町村當局、學校、婦人會、青年團等ト緊密ナル連絡ヲ計リ一般衛生特ニ結核豫防、乳幼児愛護ニ關シテ集會ヲ開キ一方榮養ニ關シテハ一般榮養ノ改善ハ勿論、進ンデ農繁期共同炊事ニ特ニ力ヲ注ゲリ、成績次表ノ如シ。
ロ、刊行セシ印刷物 印刷物配布ノ各家庭ニ及ボス影響ハ甚大ナルヲ以テ特ニ時宜ヲ失セザル様留意シ特ニ傳染病、一般榮養、乳幼児愛護、寄生虫、井戸、糞便貯溜槽ニツキテハ多クノ印刷物ヲ配布セリ
成績次表ノ如シ

集 會

種 別	内 容	回 數	人 員
講 習 會	一般衛生	2	230
	榮 養	27	1119
講 演 會	一般衛生	19	3080
	榮 養	15	2090
座 談 會	一般衛生	18	1378
	榮 養	32	1085
映 画 會	一般衛生	2	400
	榮 養	1	200
其 他	一般衛生	11	3200
	榮 養	9	354
計		136	13136

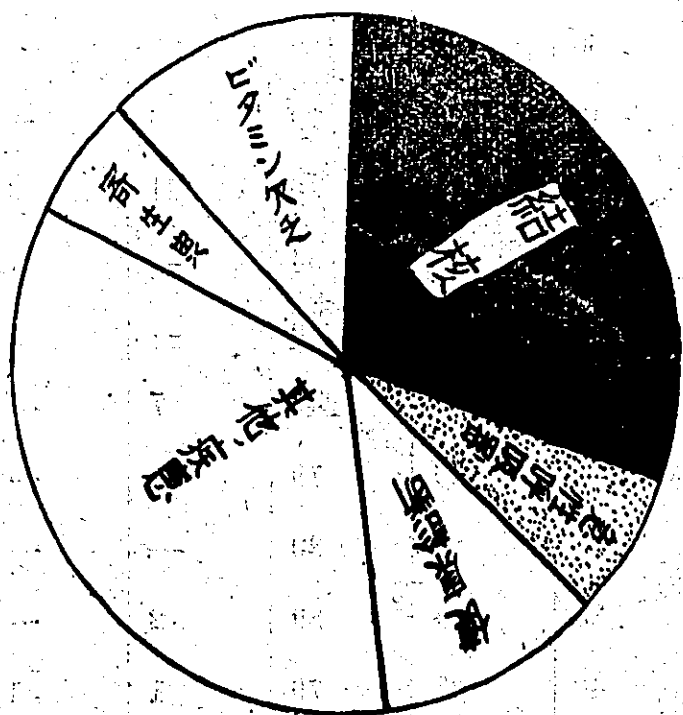
刊行セシ印刷物

種 別	内 容	回 數	人 員
パンフレット	一般衛生	77	3720
	榮 養	69	862
リーフレット	一般衛生	27	825
	榮 養	88	1270
ビラ	一般衛生	2	200
	榮 養	13	934
其 他	一般衛生	8	910
	榮 養	39	15264
計		319	23985

二、健康相談

イ、所内健康相談 開所以來相談者ハ逐次増加ノ傾向ヲ示シ保健所ノ使命ハ次第ニ認識セラレツ、アリ。之レガ相談事項ヲ病類別ニ見ルニ別表及別圖ノ如ク結核性疾患ヲ目的トスルモノ半數ニ近ク結核相談所トシテモ亦能ク其ノ機能發揮サレツ、アルヲ認ム。他方ビタミン欠乏症、寄生虫病等其ノ治療等閑ニ附サレ勝ノモノニツキテモ利用者割合ニ多キ事モ有意義ナリト考ヘラル。

所内相談



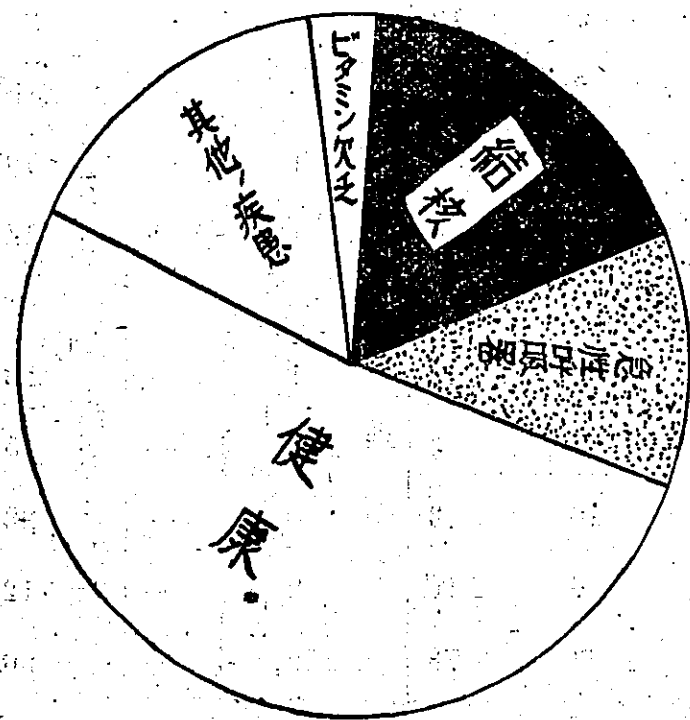
然ルニ乳兒ニ就キテハ榮養障碍多キニ拘ハラズ豫メ育兒相談ヲナシ將來ノ萬全ヲ期スルモノ殆ンド無キハ全ク遺憾デアル。

種別	回數	人員
結核	136	13136
一般衛生	136	13136
榮養	136	13136
皮膚病	136	13136
その他	136	13136
計	136	13136

來所相談病類別表

	一 般			乳兒幼	妊産婦	總計	%
	男	女	計				
一般傳染病	3	6	9	28	—	37	
結核性疾患	504	713	1217	110	2	1329	29.7
急性呼吸器疾患	81	88	169	99	—	268	6.0
下痢及腸炎	12	16	28	32	—	60	1.3
胃及十二指腸潰瘍	111	74	185	1	—	186	4.1
其ノ他消化器疾患	50	80	130	23	—	153	3.4
肝臟及膽道疾患	17	12	29	3	—	32	0.7
腎臟炎	61	29	90	21	9	120	2.6
其ノ他泌尿器疾患	10	44	54	—	1	55	1.2
妊娠障碍及中毒	—	8	8	—	2	10	0.2
寄生虫	70	170	240	7	—	247	5.5
微毒性疾患	52	26	78	—	—	78	1.7
神経系疾患	55	25	80	—	—	80	1.7
心臟辨膜障碍	35	54	89	2	—	91	2.0
其ノ他心臟ノ疾患	46	33	79	1	1	81	1.8
高血壓其ノ他	57	44	101	2	—	103	2.3
ビタミン欠乏症	138	404	542	34	—	576	12.9
其ノ他ノ全身病	40	85	125	11	—	136	3.0
眼耳鼻科疾患	33	34	67	—	—	67	1.5
皮膚科疾患	26	41	67	49	—	116	2.5
外科的疾患	30	24	54	2	—	56	1.2
先天性弱質及畸形	2	3	5	14	—	19	0.4
不明	60	62	122	9	—	131	2.9
不健康者	159	132	291	128	15	434	9.7
計	1652	2207	3859	576	30	4465	
%	36.9	49.5	86.4	12.9	0.7		

巡回相談



ロ、巡回健康相談 主トシテ無醫村ニカテ注グ可キガ至當ナルモ當地域ハ割合ニ醫療施設ニ恵マレ(醫師一人當リ人口ハ一六八二人)居ルヲ以テ年二回ヲ標準トシテ全區域ヲ巡回シ得ル様努メタリ。之レガ利用者ヲ病類別ニ見ルニ別表及別圖ノ如ク老人ノ胃腸疾患割合ニ多ク眞ニ對策ヲ必要トスル發育期ノ者ノ利用率少キハ遺憾ニシテ特ニ結核ニ關シテハ隣人ノ前テ惡病ノ烙印ヲ押サル、カノ如ク解シ利用者割合ニ少キハ誠ニ寒心ニ堪エズ。

ハ、理化學的諸検査 所内及巡回健康相談ニ於テ實施セル諸検査ヲ一括スレバ別表ノ如シ。

巡廻相談病類別表

	一 般			乳幼兒	妊産婦	總 計	%
	男	女	計				
一般傳染病	—	2	2	12	—	14	0.3
結核性疾患	377	357	734	95	—	829	18.6
急性呼吸器疾患	198	203	401	99	—	500	11.2
下痢及腸炎	—	1	1	7	—	8	0.2
胃及十二指腸潰瘍	16	7	23	1	—	24	0.5
其ノ他消化器疾患	3	9	12	13	—	25	0.6
肝臟及膽道疾患	1	2	3	—	—	3	0.1
腎 臟 炎	5	4	9	1	—	10	0.2
其ノ他泌尿器疾患	3	3	6	1	6	13	0.3
妊娠障碍及中毒	—	—	—	—	1	1	—
寄 生 虫	13	9	22	1	—	23	0.5
微 毒 性 疾 患	2	1	3	2	—	5	0.1
神 經 系 疾 患	7	16	23	—	—	23	0.5
心 臟 辨 膜 障 碍	6	4	10	2	—	12	0.3
其ノ他心臓疾患	37	41	78	12	—	90	2.0
高血壓其ノ他血行器	27	16	43	2	—	45	1.0
ビタミ ン 欠 乏 症	43	75	118	13	—	131	2.9
其ノ他ノ全身病	34	36	70	36	—	106	2.3
眼耳鼻科疾患	72	50	122	17	—	139	3.1
皮 膚 科 疾 患	13	8	21	27	—	48	1.1
外 科 的 疾 患	13	7	17	15	—	35	0.8
先天性弱質及畸形	3	5	8	20	—	28	0.6
不 明	10	15	25	—	—	25	0.6
健 康 者	1089	788	1877	424	1	2302	51.8
計	1672	1659	3631	800	8	4439	
%	44.4	37.4	81.8	18.8	0.2		

理化學的諸検査

種 目	業務上利用	一般利用	計
尿	491	21	512
糞	463	21767	22230
喀 痰	69	31	100
血 液	1036	610	1646
X線	透視	3	97
	撮影	34	34
其 他	281	581	862
計	2468	23013	25481

三、家庭訪問

イ、結核患者家庭訪問 健康相談ニヨリ發見セシ結核患者ニ對シテハ隨時保健婦ヲシテ其ノ家庭ヲ訪問セシメ療養ノ指導ニ當ラシメツ、アリ。
 之レガ成績ヲ發熱、咳嗽、喀痰、食慾等ノ自覺的症狀ヲ主トセル經過ヲ觀察シテ轉歸ヲ比較スルニ訪問看護ニヨリ相當ナル實績ヲ認メラレ一方之レヲ地域別ニ見ルニ別表ノ如ク農村部ニ於ケル成績

家庭訪問乳幼児ノ栄養方法ト栄養概評

生後	栄養法	實數	栄養良				栄養中				栄養下			
			男	女	計	%	男	女	計	%	男	女	計	%
六ヶ月	母乳	58	16	9	25	48.1	11	12	23	39.6	3	7	10	17.3
	混合	24	8	3	11	45.8	3	4	7	29.2	4	2	6	25.0
	人工	9	—	2	2	22.2	1	1	2	22.2	—	5	5	55.6
	計	91	24	14	38	41.8	15	17	32	35.2	7	14	21	23.0
一年	母乳	61	9	17	26	42.6	12	6	18	29.5	7	10	17	27.9
	混合	17	1	3	4	23.5	8	—	8	47.0	2	3	5	19.5
	人工	10	—	2	2	20.0	—	1	1	10.0	—	7	7	70.0
	計	88	10	22	32	36.4	20	7	27	30.7	9	20	29	32.9
二年	母乳	50	9	9	18	36.0	9	12	21	42.0	5	6	11	22.0
	混合	10	3	—	3	30.0	4	2	6	60.0	—	1	1	10.0
	人工	8	—	1	1	12.5	1	1	2	25.0	1	4	5	62.5
	計	68	12	10	22	32.4	14	15	29	42.6	6	11	17	25.0
三年以上	母乳	28	3	4	7	25.0	5	10	15	53.5	1	5	6	21.5
	混合	6	—	—	—	—	1	2	3	50.0	2	1	3	50.0
	人工	3	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	3	100.0
	計	37	3	4	7	18.9	6	12	18	48.7	6	6	12	32.4
計	母乳	197	37	39	76	38.5	37	40	77	39.0	16	28	44	22.5
	混合	57	12	6	18	31.5	16	8	24	42.1	8	7	15	26.4
	人工	30	—	5	5	16.7	2	3	5	16.7	4	16	20	66.6
	計	284	49	50	99	34.9	55	51	106	37.3	28	51	79	27.8

ロ、乳幼児家庭訪問 健康相談ニ於テ特ニ發育不良ナル者、哺育適正ナラザル者ヲ選ビテ保健婦ヲ家庭訪問セシメ之レガ指導ニ努メタリ。次ニ訪問セシ乳幼児ニ就キ栄養方法ト栄養概評、及ビ年令別發育概評ヲ觀察セルニ別表及別圖ノ如キ成績ヲ得タリ。
即チ栄養方法ト栄養概評ノ關係ヲ見ルニ栄養下ノモノハ人工栄養ニ最モ多ク年令別ニハ満一才ノ者即離乳期ノモノ最悪ナリ。

地域	實數	延數	訪問患者		別内		計	要注家族						
			就業	軽快	増悪	死亡								
山間	66	69	13.0%	46%	55%	79.6%	9	13.0%	2	2.8%	11	15.9%	3	
農村	136	153	25.5%	91%	84.9%	14	9.1%	2	1.3%	16	10.4%	7		
海岸	160	223	16.1%	130%	74.4%	49	21.9%	5	2.2%	54	24.2%	3		
計	362	445	18.8%	267%	60.0%	351	78.8%	72	16.1%	9	2.0%	81	18.2%	13

結核患者家庭訪問成績

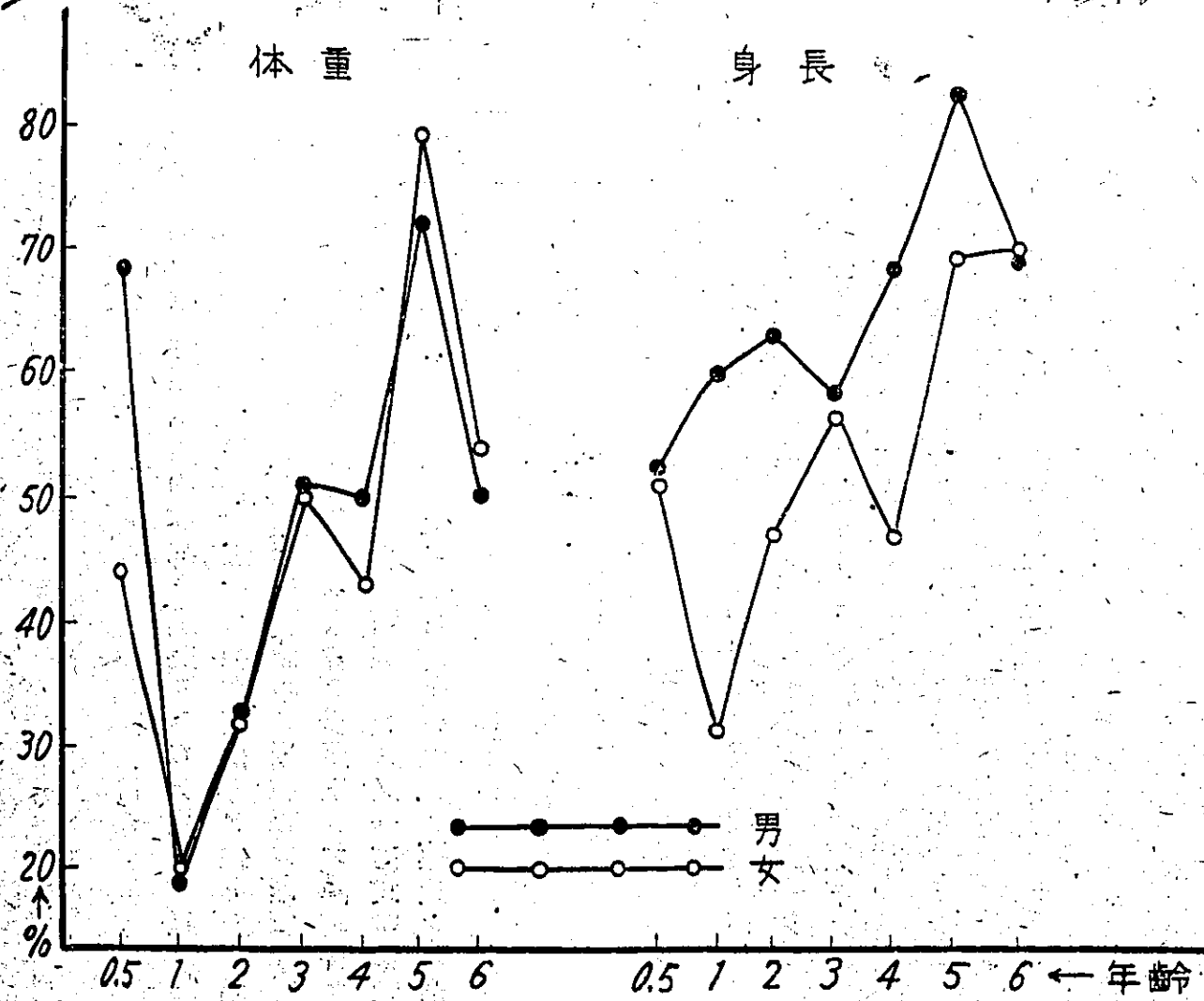
最モ良ク海岸部ニ於ケル成績最モ悪シ。
ソノ原因ヲ考按スルニ農村部ニ於テハ割合ニ小丘、綠地多ク療養ニ適スルモノト認メラレ反對ニ海岸部ニテハ人口稠密ナルト海面ニ直面シテ湿度温度風速其ノ他激變シ易ク療養ニ適セザルモノト認メラル、即チ結核療養ニハ少クトモ小丘、森林等ニヨリ海洋氣候ヲ遮斷スル必要アリト思ハル。

乳幼児年齢別發育概評 (身長)

年 齡	調査種類	調 査 人 員			標 準 に 達 セ ル 者					
		男	女	計	男	%	女	%	計	%
六ヶ月	外 來	54	43	97	28	51.8	22	51.1	50	51.5
一 年	外 來	27	29	56	19		8		27	48.2
	ツ陰性要注意	8	3	11	2		2		4	36.3
	計	35	32	67	21	60.0	10	31.2	31	46.2
二 年	外 來	48	39	87	32		17		49	56.3
	ツ反應陽性	9	6	15	5		4		9	60.0
	ツ陰性要注意	5	4	9	2		2		4	44.4
計	62	49	111	39	62.9	23	46.9	62	55.8	
三 年	外 來	31	19	50	17		9		26	52.0
	ツ反應陽性	1	6	7	1		4		5	71.4
	ツ陰性要注意	4	7	11	3		5		8	72.7
計	36	32	68	21	58.3	18	56.2	39	57.3	
四 年	外 來	24	22	46	15		9		24	52.1
	ツ反應陽性	5	10	15	4		7		11	73.3
	ツ陰性要注意	3	11	14	3		4		7	50.0
計	32	43	75	22	68.7	20	46.5	42	56.0	
五 年	ツ反應陽性	5	8	13	5		6		11	84.6
	ツ陰性要注意	12	5	17	9		3		12	70.5
	計	17	13	30	14	82.3	9	69.2	23	76.6
六 年	ツ反應陽性	11	8	19	8		5		13	68.4
	ツ陰性要注意	8	8	16	5		6		11	68.7
	計	19	16	35	13	68.4	11	68.7	24	68.5

乳幼兒年齢別發育概評 (体重)

乳幼兒年齢別
發育概評 (標準ニ達セルモノ)ノ百分率



更ニ年齢別發育概評ヲ體重及身長ニ就キテ觀ルニ外來患者ツベ
ルクリン陽性者、同陰性要注意
者ノ別無ク滿一歲即チ離乳期ニ
於テ最悪ナリ。
以上ノ如ク山農漁村ニ於ケル、
育兒法ニハ多ク是正スベキ點ア
リ之レガ指導ニハ相當ノ努力ヲ
要スル者モノト認メラレ。特ニ
離乳遲延セザル様、又離乳期榮
養ノ誤ラザル様指導ノ要アリ。

年齢	調査種類	調査人員			標準ニ達セル者					
		男	女	計	男	%	女	%	計	%
六ヶ月	外來	54	43	97	37	68.5	19	44.1	56	57.7
一 年	外來	27	29	56	8		5		13	23.2
	ツ陰性要注意	21	13	34	1		3		4	11.7
	計	48	42	90	9	18.7	8	19.0	17	18.8
二 年	外來	48	39	87	22		12		34	39.0
	ツ反應陽性	9	6	15	2		3		5	33.3
	ツ陰性要注意	23	20	43	2		6		8	18.6
計	80	65	145	26	32.5	21	32.3	47	32.4	
三 年	外來	31	19	50	15		13		28	56.0
	ツ反應陽性	8	17	25	3		9		12	48.0
	ツ陰性要注意	10	16	26	7		4		11	42.3
計	49	52	101	25	51.0	29	50.0	51	50.4	
四 年	外來	24	22	46	14		4		18	39.1
	ツ反應陽性	12	21	33	6		18		24	54.5
	ツ陰性要注意	18	24	42	7		7		14	33.3
計	54	67	121	27	50.0	29	43.2	56	46.2	
五 年	ツ反應陽性	11	17	28	9		15		24	53.5
	ツ陰性要注意	22	21	43	15		15		30	69.7
	計	33	38	71	24	72.7	30	78.9	54	76.0
六 年	ツ反應陽性	19	15	34	8		9		17	50.0
	ツ陰性要注意	21	17	38	12		8		20	52.6
	計	40	32	72	20	50.0	17	53.1	37	51.3

農繁期共同炊事實施成績

		能率	疲勞	便通	腹持	食欲	睡眠
良キ者	實數	99	104	83	72	111	110
	百分率	75.0	78.7	62.8	54.5	84.0	83.3
悪キ者	實數	5	6	—	2	4	—
	百分率	3.7	4.5	—	1.5	3.0	—
變化ナキ者	實數	22	10	29	54	8	22
	百分率	16.6	7.5	19.2	40.1	6.1	16.6
不明	實數	6	12	20	4	9	—
	百分率	4.5	9.1	15.1	3.0	6.8	—

五、環境衛生ノ指導

イ、健康部落ノ指定 二ヶ村三部落ヲ指定シテ井水検査、台所、便所

其ノ他家屋全般ノ調査ヲ行ヒ夫々欠陥ヲ指示シテ無盡其ノ他ノ方法ニ依リ之レガ改善ヲ獎勵シツ、アリ。

ロ、寄生虫検査 前記指定部落ノ外町村ノ求メニ應ジテ検査ヲ實施セ
ル外特ニ區域内全小學校兒童ノ検査ヲ實施シ其ノ分布ノ狀況ヲ
知ルト共ニ虫卵別ニ之レガ驅虫ヲ行ヒ以テ虚弱化ノ禍根ノ除去
ニ努ムルト共ニ他方父兄ヲ集メテ糞便處理及貯溜槽設置ニ關シ
指導セリ。

次ニ一九三四七名ノ學童ニ於ケル結果ヲ虫卵別地域的ニ觀ルニ

榮養講習會

種類	回数	人員
一般榮養	18	1155
乳幼兒ノ榮養	2	35
特殊疾病ノ榮養	2	60
競演會	18	374
試食會	6	250

四、榮養ノ指導

イ、榮養改善指定部落

環村小志駒部落ヲ選定シテ六ヶ月間ニ亘リ部落榮養改善ノ指導ヲ行ヘリ。

最初ノ二ヶ月ハ戸別指導ヲ主トシ、講習會、座談會ヲ開催セル外毎日ノ榮養献
立ヲ發行榮養記事ヲ掲載セル印刷物(榮養新聞)ヲ頒布シテ紙上指導ヲナセリ
立、講習會 婦人會ヲ對照トシテ講習會ヲ開催セル外競演會、試食會ヲ開キテ一
般ニ批判、研究セシメ又一方食堂經營ニ献立ヲ提供シ或ハ新聞紙(木更津日
報)上ニ毎日ノ榮養献立ヲ連載シテ指導セリ、主ナル集會上表ノ如シ。

ハ、間食ノ調査 二ヶ村五一五名ノ乳幼兒、學童ニ就キ間食ノ種類

ヲ調査セルニ煎餅ヲ第一位トナシ以下キヤラメル、カルケツ
ト、飴玉、駄菓子、砂糖、餅菓子等ノ順位トナリ、更ニ此ノ
中齶齒所有率ヲ檢セルニ次表ノ如ク甘味強キモノ程齶齒發生
率多キコトヲ發見セリ。依ツテ之レガ對策トシテビタミンB
及無機質性食品ニ主キヲ置ケル間食ノ製法ヲ各家庭ニパンフ
レツトトシテ配布シ間食ハ各家庭テ調理スル様獎勵セリ。

間食ト齶齒所有率

間食ノ種類	齶齒所有率
キヤラメル	83.33%
飴玉	73.15
カルケツト	59.39
煎餅	40.63
其他	—

ニ、共同炊事

農繁期ニ於ケル能率増進ト健康低下防止ヲ目的トシテ
春季ト秋季二期ニ於テ實施セルモノニシテ春季ハ挿秧期ヲ期シ
五部落一三三戸ニ對シ縣當局及郡農會ノ協力ノ下ニ實施セリ。
其ノ成績ヲ七九二名ニ就キ食欲、腹持、疲勞等ノ項ニ分チ回答ヲ
求メシニ上表ノ如キ好結果ヲ得タリ。次ニ秋季共同炊事ニ就キ
テハ各農家ノ繁忙狀況異ルヲ以テ春季ト同様ノ方法ニテハ實施
困難ナル如ク、三部落ニ就キ實施セル中好成绩ニ終ル一部落
ノ例ニ就キテ結果ヲ見ルニ戸別毎ニ共同作業及ビ共同炊事ヲ巡
廻セシムルガ最モ能率的ナルガ如ク勞働力ハ前年ニ比シ概摺反
當リ二、五名ヨリ二、〇名ニ節減當部落二六五反ニテハ實ニ二
三二名分ノ勞力節減トナリ副食費ハ一回八錢程度ニテ經濟的ニ
實施セルヲ得タリ。

學童寄生虫調査

學年別地域別

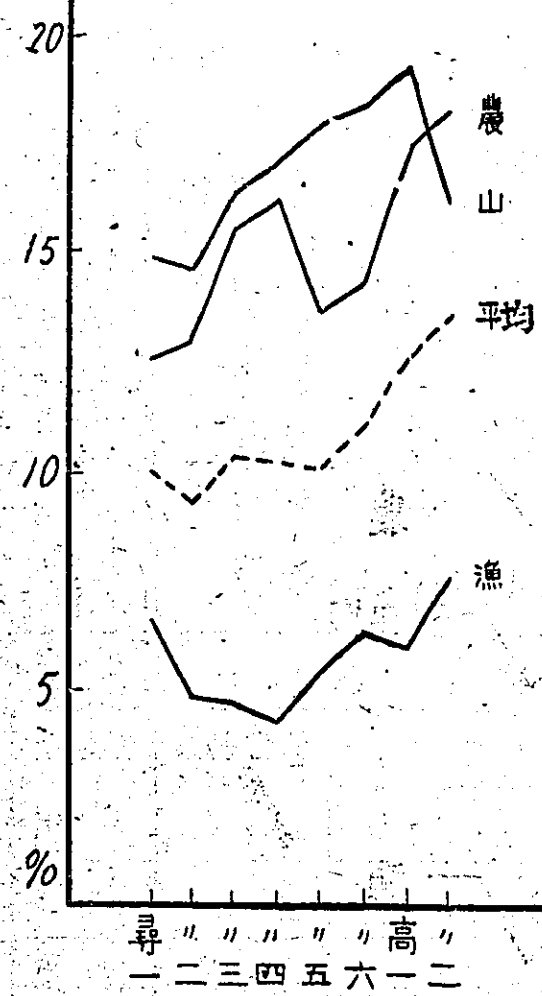
		山村部	農村部	漁村部	總計
尋一	検査人員	396	977	1318	2691
	有卵者	47.47	32.85	19.57	28.39
	十二指腸虫	14.89	12.58	6.67	10.03
	蛔虫	21.96	12.48	7.88	11.63
尋二	検査人員	350	1025	1313	2688
	有卵者	48.85	34.14	17.82	28.08
	十二指腸虫	14.57	12.97	4.87	9.22
	蛔虫	22.28	11.41	7.84	11.08
尋三	検査人員	437	923	1282	2642
	有卵者	47.82	37.05	18.48	29.82
	十二指腸虫	16.24	15.49	4.75	10.40
	蛔虫	21.51	10.18	7.33	10.67
尋四	検査人員	376	920	1306	2602
	有卵者	52.39	37.50	20.44	31.09
	十二指腸虫	17.02	16.19	4.21	10.29
	蛔虫	22.87	11.63	9.11	11.99
尋五	検査人員	329	930	1224	2483
	有卵者	57.14	35.59	19.68	30.60
	十二指腸虫	17.93	13.65	5.31	10.10
	蛔虫	19.75	8.70	6.29	8.98
尋六	検査人員	390	1013	1286	2689
	有卵者	49.48	34.74	17.65	28.70
	十二指腸虫	18.46	14.31	6.22	11.04
	蛔虫	22.56	9.77	6.37	10.00
高一	検査人員	330	716	882	1928
	有卵者	47.87	37.29	20.97	31.63
	十二指腸虫	19.33	17.31	6.00	12.50
	蛔虫	16.06	7.96	7.02	8.92
高二	検査人員	284	675	665	1624
	有卵者	45.07	35.70	21.05	31.34
	十二指腸虫	16.19	18.22	7.66	13.54
	蛔虫	15.49	8.29	6.76	8.92

地域別	検査人員 名	有卵者 %	寄生蟲卵ノ種類									
			十二指腸虫	蛔虫	果糖毛線虫	蟻	蟻	ナ	條虫	横川吸虫	肝臟	肺
山村	2892	49.5	16.8	20.6	24.8	6.9	0.5	—	—	—	0.03	—
農村	7170	35.5	14.9	10.2	15.0	3.7	0.3	0.01	—	—	0.01	0.01
漁村	9276	19.3	5.6	7.4	4.9	4.3	0.3	0.02	0.01	—	—	—
總計	19347	29.8	10.7	10.4	11.6	4.5	0.4	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01

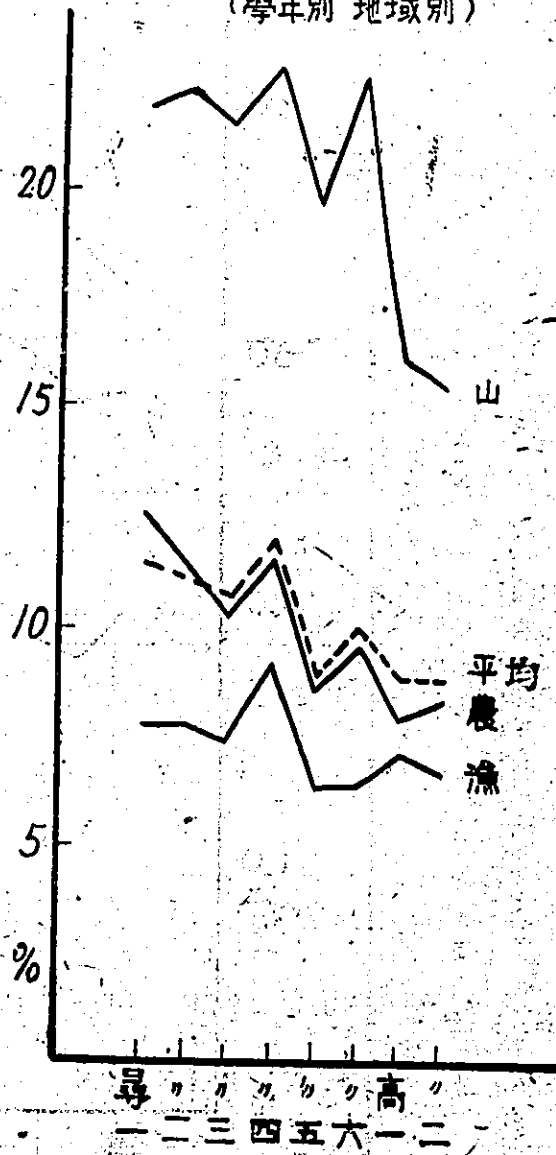
小學校兒童寄生虫調査
寄生蟲卵別地域別

次表ノ如ク十二指腸虫、蛔虫共ニ山間部ニ最も多ク海岸部ニ最も少シ。尙ホ當地方ニ於テハ蛔虫割合ニ少ク十二指腸虫割合ニ多キハ注目スベキ事項ナリ。
更ニ學年別地域別ニ觀察スルニ次表ノ如ク全有卵率ハ地域ニ關係ナク高學年ニナルニ從ヒ高率ヲ示シ
十二指腸虫ニツキテモ同様ニ學年ノ進ムニ從ヒ高率ヲ示スモ蛔虫ニアリテハ低學年ニ於テ高率ヲ示シ
高學年ニテハ一樣ニ減少ノ傾向ヲ示セリ。

十二指腸蟲有卵
(學年別 地域別)



蛔蟲有卵率
(學年別 地域別)



一九

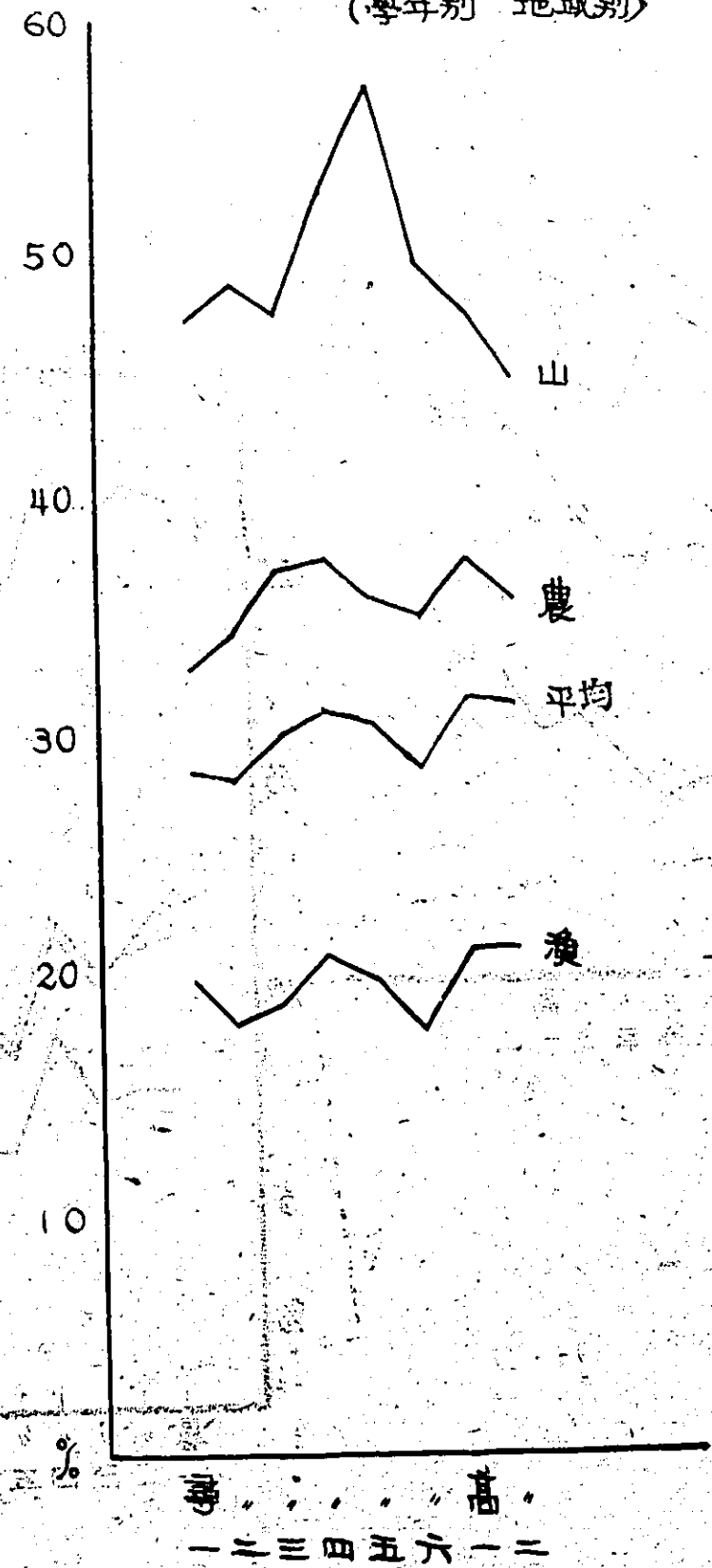
次表ノ如ク十二指腸虫、蛔虫共ニ山間部ニ最モ多ク海岸部ニ最モ少シ。尙ホ當地方ニ於テハ蛔虫割合

Region	Year	1st	2nd	3rd	4th	5th	6th	1st	2nd
山間部	1931	14.5	15.0	16.5	17.5	18.5	19.5	17.5	16.0
	1932	15.0	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	18.0	16.5
	1933	16.0	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	19.0	17.5
	1934	17.0	18.0	19.0	20.0	21.0	22.0	20.0	18.5
	1935	18.0	19.0	20.0	21.0	22.0	23.0	21.0	19.5
	1936	19.0	20.0	21.0	22.0	23.0	24.0	22.0	20.5
海岸部	1931	10.0	10.5	11.0	11.5	12.0	12.5	12.5	12.0
	1932	10.5	11.0	11.5	12.0	12.5	13.0	13.0	12.5
	1933	11.0	11.5	12.0	12.5	13.0	13.5	13.5	13.0
	1934	11.5	12.0	12.5	13.0	13.5	14.0	14.0	13.5
	1935	12.0	12.5	13.0	13.5	14.0	14.5	14.5	14.0
	1936	12.5	13.0	13.5	14.0	14.5	15.0	15.0	14.5

一八

寄生虫有卵率

(學年別 地域別)



六、學校衛生ノ指導

學校衛生ニ關シテハ今日迄ノ所校醫ヲ囑託シアリシモ學校當局者ハ専門的知識ヲ有セズ、且ツ時局柄多事ナル爲メ醫學急速ノ進歩ニ追從シ得ザルトニ依リ兒童養護ニ關シ全力ヲ傾注シ得ザルノ憾アリ。偶々體力管理實施セラル、事トナリ當地方ニ於テハ之ガ準備調査行ハレタルヲ以テ其ノ成績ヲ基礎トシテ更ニ一步ヲ進メ學校衛生ニ協力指導ヲ行フコト、セリ。

イ、結核豫防 山農漁村ニアリテハ幾何ノ感染率アリヤ、又罹患率ハ都市ニ比シ大ナル徑庭アルヤ否ヤヲ知ラントシテ區域内ツベルクリン陽性全兒童ニ就キテ詳細ナル健康診斷ヲ行ヒ赤血球沈降速度ノ測定、レントゲン検査、有熱狀況ノ調査ヲ行ヒ要注意者ニ就キテハ適宜ニ指示指導セリ。

1、ツベルクリン反應 先ヅ區域内一四四七〇名ノ乳幼児及一八〇五八名ノ學童ニ就キツベルクリン陽性率ヲ觀ルニ別表及別圖ノ如ク乳幼児ニアリテハ地域別ニ關係ナク年齢ノ増加ト共ニ陽性率徐々ニ増加セルモ學童ニアリテハ之レニ反シ海岸部ニ至ルニ從ヒ高率ヲ示スト共

ツベルクリン陽性率

乳 幼 兒								
地域別	被檢實數	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	總平均	
山村	1802	1.83	2.25	4.59	3.92	6.02	3.71	
農村	5857	1.50	2.30	3.71	4.00	5.96	3.39	
漁村	6811	2.42	3.88	3.93	4.18	4.50	3.75	
計	14470	1.98	3.04	3.92	4.08	5.16	3.60	
學 童								
地域別	被檢實數	7 歳	8 歳	9 歳	10 歳	11 歳	12 歳	總平均
山村	2663	5.05	5.03	3.67	5.21	5.16	9.72	5.63
農村	7077	5.83	5.71	6.60	5.54	8.61	10.62	7.16
漁村	8318	6.52	11.04	9.38	10.00	14.29	14.48	10.90
計	18058	6.05	8.06	7.42	7.57	10.58	12.23	8.65

赤沈促進率

地域別	全児童數	ツベルクリン陽性數	血沈測定數	赤沈促進數	對ツ陽性血沈促進	對全児童血沈促進
山村	2101	134	72	43	32.0	2.04
農村	6592	487	219	124	25.4	1.88
漁村	8834	990	709	331	33.4	3.74
計	17527	1611	1000	498	30.9	2.84

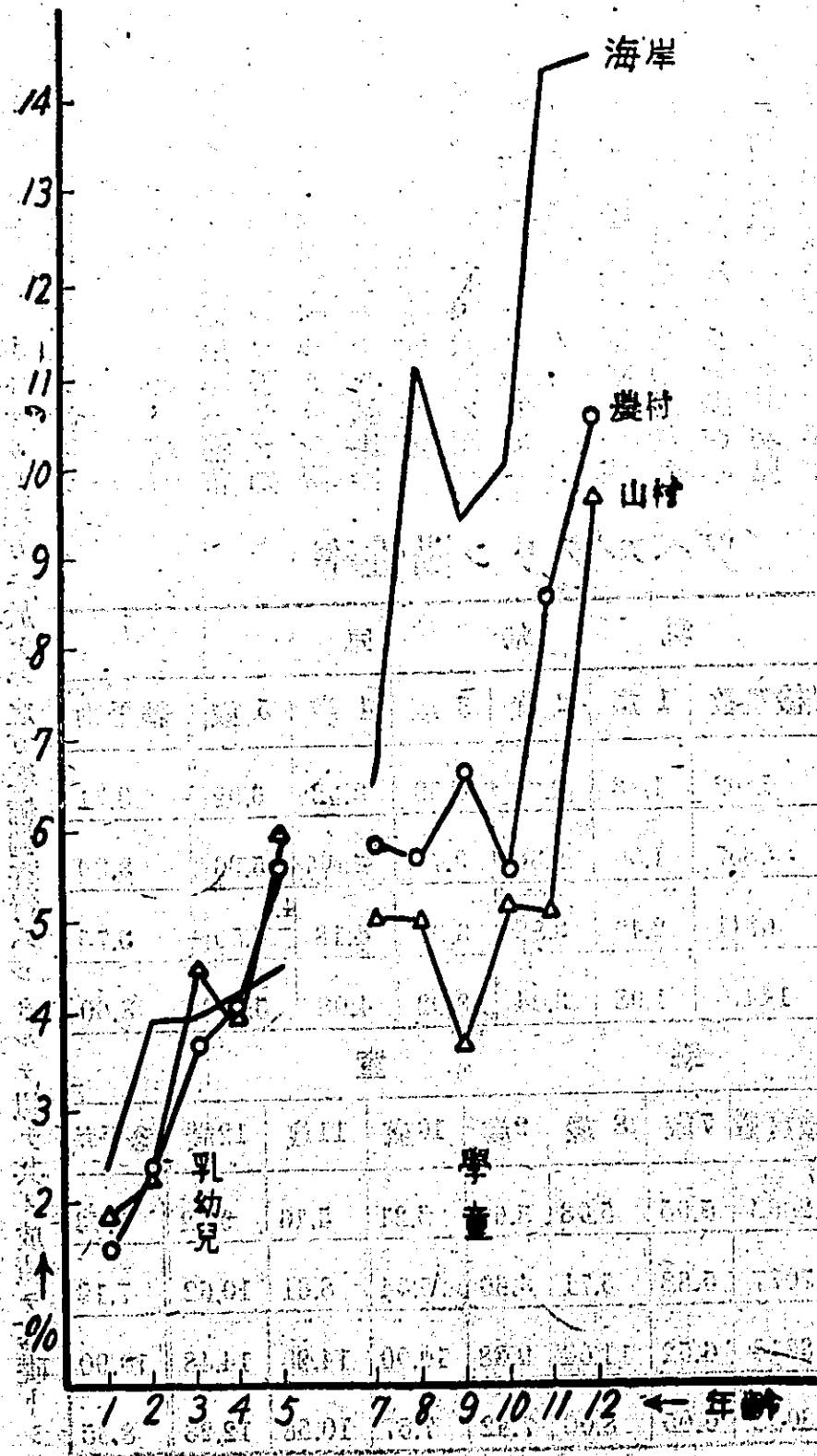
3、有熱狀況 前述ツベルクリン陽性、赤沈促進中等價一五粒以上ノモノヲ觀ルニ別表ノ如ク總數ノ約三割ヲ占メ全児童ニ對シテハ二、八四%ノ要注意者アルヲ認ム。更ニコレヲ地域別ニ觀ルニ海岸部最高率ヲ示シ農村部最低ナリ。

有熱狀況 前述ツベルクリン陽性、赤沈促進兒童五一九名ニ就キ或ハ家庭訪問ヲナシ或ハ學校ニ依頼シテ檢温シ發熱狀況ヲ調査セルニ次表ノ如ク其ノ半數以上ハ有熱兒童ニシテ養護ヲ要スル者ト認メラレ更ニ之レヲ地域別ニ觀ルニ有熱者ハ山間部ニ於テ頗ル高率ヲ示シ農村部ニ於テ最低ナリ。翻ツテ山間部ニ於テ有熱者多キ原因ヲ考按スルニ榮養不足ナルト遠距離通學ニ起因スルモノナリト推定セラル

有熱者

地域別	無熱	有熱	計	對ツ陽性熱有		
山村	17	28.88	43	71.67	60	28.66
農村	72	54.18	61	45.87	133	12.52
漁村	159	48.78	167	51.22	326	17.14
計	248	47.79	271	52.21	519	16.82

ツベルクリン反應陽性率



2、赤血球沈降速度 シニ集團生活ノ影響タル急激ナル陽性轉化モ亦海岸部ニ至ルニ從ヒ早期ニ出現スルヲ認ム。前記ツベルクリン陽性全児童一六一名ノ中一〇〇〇名ニ就キ赤血球沈降速度ヲ測定

地域別重症兒童

地域別	全兒童數	陽性	赤沈促進	重症數	全兒童數對重症	陽性對重症	赤沈促進對重症
山村	2382	150	49	6	0.25	4.00	12.24
農村	6873	487	124	22	0.32	4.51	17.74
漁村	8598	974	325	42	0.48	4.31	12.92
計	17853	1611	498	70	0.33	4.33	14.05

4、重症兒童 上述ノ者ノ中特ニ中等症以上ニシテ打診、聽診上所見著明又ハレントゲン診断ニ依リ所謂肺結核ノ像ヲ呈スルモノヲ集計セルニ別表ノ如クツベ
ルクリン陽性者ノ四%赤沈促進者ノ一四%ヲ示シ學童全數ニ對シテハ〇、三三
%即三〇〇名ノ兒童ニツキ一名ノ重症者アルコト、ナレリ。

ロ、榮養ノ指導

1、學校給食 管下二、三ノ學校ニ於テ給食行ハレ居ルモ之レハ單ニ缺食兒童ニ
對スルモノ、ミニテ極メテ限局的ニシテ未ダ一般の學校給食行ハレ居ラズ。
然ルニ當地山農村部ニ在リテハ學童ノ發育ハ充分トハ云ヒ難ク動物性蛋白質ノ
不足セルモノ、如ク依ツテツベルクリン要注意兒童及一般虛弱兒童ニ對シテ肝
油製劑ノ給食ヲ行ハシムル一方煮干粉ノ獎勵ヲナシ又特ニ一校ヲ指定シテ糖
食用化ヲ實施セシメツツアリ多大ノ反響アルモノ、如シ。

2、臨海學校ノ指導 夏期二週間ヲ限リ學校當局ト協力シテ約百名ノ虛弱兒童及
特ニ偏食激シキ兒童ノ指導ヲ行ヒ特ニ榮養ニ關シテハ毎日ノ献立ヲ作製シテ指
導セリ。

ハ、寄生虫驅除
一九三三七名ノ管下全學童ニ對シテ寄生虫検査ヲ行ヒ虫卵別ニ之レガ驅除ヲ行
ヒシハ前述セリ(環境衛生参照)

ニ、傳染病豫防
當地域傳染病豫防ノ實狀ヲ觀ルニ其シク消極的ニシテ都市ニ比シ甚シキ程度
ルヲ示シ傳染病發生ハ逐年増加ノ傾向ニ在リ。由ツテ機會アル毎ニチフス、ワ
イル氏病其ノ他ノ豫防接種ニ學童ヲ參加セシメシ外特ニチフテリア豫防接種ノ
必要有效ナルヲ説キ八五〇名ノ低學年學童ニ對シ之レガ豫防注射ヲ施行セリ。

七、傳染病豫防

上述ノ如ク防疫ニ關スル認識未ダ不充分ナルト傳染病發生逐年増加ノ傾
向ニ鑑ミ各町村當局ト協力シテ認識ノ是正ヲ計ルト共ニ豫防接種ヲ一層
嚴ニ勵行セシムル外ワイル氏病チフテリアノ他ニモ積極的關心ヲ喚起ス
ル様努メタリ。

豫防接種成績ヲ列記スレバ次表ノ如シ。

尙ホ本表ニ示セルハ何レモ第一回豫防接種人員ニシテ第二回以後ニ於テ
ハ二、三割ノ減少ヲ來セリ。一般認識未ダ不充分ナル證左ニシテ誠ニ寒
心ニ堪エズ。

種類	人員
チフス豫防接種	20106
ワイル氏病	2600
痘種	170
チフテリア豫防接種	950
計	23826

基礎調査

一、人口動態

イ、地域別年齢別現住人口
別表ノ如ク地域別ニハ大ナル相違ナシ

ロ、人口増加率
昭和四年ヲ標準トシテ昭和十三年ニ至ル間ノ人口増加ノ割合ヲ本籍及現住人口ニ就キテ調査セルニ別
表及別圖ノ如ク山村ニ於テハ昭和九年迄ハ本籍人口ニ比シ現住人口増加シ居リシモ爾後ハ全ク反對
ナリ農村ニアリテハ昭和六年以來逐年本籍人口ニ比シ現住人口ノ増加ハ減少ノ途ヲ辿リ。然ルニ
海岸部ニアリテハ之レニ反比例シテ現住人口ハ本籍人口ニ比シ逐年増加ノ傾向ニアリテ一見山農村部

